

**「市立札幌啓北商業高校プログラミング講座業務」公募型企画競争
質問と回答(令和7年10月22日)**

質問1	該当箇所	「企画競争提案説明書」P4
	質問	8(2)イ 評価の視点 3プログラミング講座の内容「ヒアリングの手法」について、ヒアリングの対象は決まっていますでしょうか。決まっている場合、対象の想定を伺いできますと幸いです。決まっていない場合は、受託者の提案ならびに手配が必要となりますでしょうか。
	回答	「課題を解決する企画」について、本業務では地域の課題解決に向けたアプリの作成を想定しております。 そのため、ヒアリング対象は学校の近隣の地域住民等となります。 実際には、生徒が学校の近隣の地域住民に困りごと等のヒアリングを行い、その課題を解決するアプリの作成に進む流れを想定していることから、受託者様がヒアリングの対象を手配する必要はございません。 「ヒアリングの手法」につきましては、生徒が地域へ課題のヒアリングに行くにあたって、「課題を解決するためのアプリを開発するにあたって聴き取るべきポイント」「効果的なヒアリングの方法」などを事前に伝えていただく内容をご提案ください。

質問2	該当箇所	「業務仕様書」P1
	質問	4(6) 実施時間について、授業時間の範囲内と記載がございますが、事前・事後の課題を用意することは可能でしょうか。
	回答	事前・事後の課題設定は可能です。

質問3	該当箇所	「業務仕様書」P2
	質問	4(7)③ ノーコードツールについて、想定されている以外のツールを提案することは可能でしょうか。可能な場合、要件がありましたらご教示いただけますと幸いです。
	回答	昨年度の本講座においてGlideを使用していたことから、今年度もGlideの使用を想定しております。Glide以外を使用する場合、授業においては既存のグーグルアカウントを使用することから、グーグルアカウントと連携可能な(他にアカウントを用意する必要のない)ツールとしてください。